

出雲地区

保護司会

だより

第44号

目 次

巻頭言(出雲市社会福祉協議会会長)…	1
社会を明るくする運動標語…	2
作文コンテスト ………………	4
啓発講演会聴講記 ………………	6
初めての接見 ………………	7
県外視察研修に参加して …	8
更生保護功労受彰者 ………………	8
保護司の異動 ………………	8

ともに頑張りましょう



出雲市社会福祉協議会

会長 金築 真志

出雲地区保護司会の皆様には、平素より市社協の活動にご理解とご協力を頂いており、厚く感謝を申しあげます。また、安全・安心な地域社会づくりに日々尽力されていることに對して、心から敬意を表します。

さて、私は、保護司会の活動と市社協の活動はよく似ているところがあると常々思っています。もちろん活動の根拠となる法律が異なるとか国の所轄官庁が違うといった点はあります。しかし、現場の動きで言えば「人」や「地域」を対象にしていることは全く同じです。また、対象の方との関わりにおいても、両者ともその人に寄り添い、自らの力で自立(自律)して生活できるよう伴走する、背中を押す…といった支援を行います。

さりには、誰もが暮らしやすい地域になるよう、住民同士が互いに支えあい助けあう社会環境づくりに取組んでいる点も共通するのではないかでしょうか。

近年は住民同士の関係が希薄になり、お互いの生活スタイルを受け入れない、他者に対して不寛容な社会になったと言われます。こういった風潮に対抗するには、地域に暮らす方が互いに知る機会を作ること、そして多様な暮らし方があると認め合うこと、すなわち私たちの活動を地道に継続して多くの方に知つてもらうことが大変重要だと考えております。その意味で、保護司会と市社協が一緒になって取組めることもまだあると思います。ともに頑張りましょう!



やすらぎの居場所

小学生の部

最優秀賞



みんながだいじ
じぶんも だいじ
今市小 三年 渡部 匠

さがそよう
自分と友の いいところ
大津小 六年 須田 碧

やさしさと
小さな勇気で 助けよう
湖陵小 五年 原 秀斗

佳作

ありがとう
ちやんといどばで つたえよう
長浜小 二年 川島 早恵

争いを
無くす為には まず理解
四絆小 六年 阿郷 百花

立ち直る
人を信じて 支えたい
荒木小 六年 前廣 蓮

最優秀賞



いじわるは
友だちへるよ やめようよ
出東小 三年 中尾けいと

気もちはね
見えないけれど つたわるよ
莊原小 二年 足立 圭悟



ありがとう
その一言で あたたかい
荒木小 四年 山崎 友里

たいせつに
一人一人が 生きている
今市小 四年 細川 夏帆

あいさつで
目が合う 声合う 心合う
荒木小 五年 笹野井久詩

その言葉
なぐってなくとも ぼう力だ
大津小 五年 森 実咲

最優秀賞



中学生の部

考えよう
言葉のチカラ 伝える気持ち
斐川西中 三年 影山 美翔

見つけ出す
あなたと私の いいところ
斐川西中 三年 石橋 凜

犯罪者?
過去は過去 今を見る
第三中 一年 蝶野 天音

佳作

「どうしたの?」
誰かを救う 魔法の言葉
斐川西中 三年 陰山 結衣

多様性
認める心で 住み良い社会
斐川西中 三年 杉原 尚磨

優秀賞

「それはダメ」
見て見ぬふりせず 言える勇気
向陽中 二年 堀内 陽菜希

着実に
磨けていくよ 豊かな感性
斐川西中 三年 古澤 篤拓

いじめのない
世界つくるの わたしたち
斐川西中 三年 三原 碧斗

いじめより
よりそう心 人育つ
斐川西中 三年 尾原 奏音

ありがとう
伝えるたびに 広がる友情
斐川西中 三年 矢田 優彩

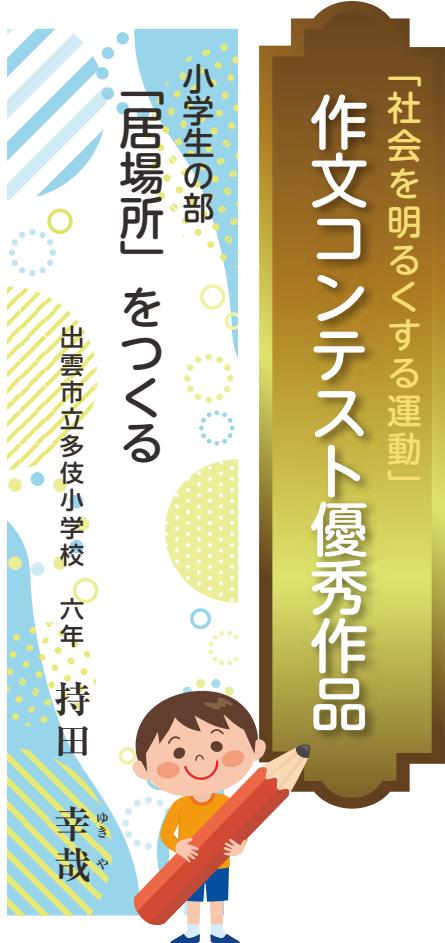
えがお咲く
思いやりから 広がつて
斐川西中 三年 後藤 葵

差別断つ
違いを超えて 広がる輪
斐川西中 三年 南場 未来



社会を明るくする運動 作文コンテスト優秀作品

「社会を明るくする運動」



ぼくは、この作文を書くことになつて初めて「社会を明るくする」ということについて考えました。自分が住む町のことは大好きです。けれど、地域を良くするための活動については、あまり知りません。

できる事が分かりました。そのお手伝いをしているのが、自助グループや更生保護施設の人たち、協力用主、保護司の人たちです。犯罪をおかした人に正面から向き合おうとする強い気持ちが伝わつてきました。

そこでまず、「明るい社会」とはどんな社会なのか考えてみることにしました。そして思いついたのが「犯罪がない社会」「地域の交流がある社会」です。けれど、このような社会を作るために何をすればいいのか、ぼくに出来ることはありますか、良い考えがうかびません。特に「犯罪」については難しいと思いました。犯罪は、それを起す人の心情の問題です。その人が変わらないと犯罪はなくならないと思ったからです。

考えていると、お母さんが、ある動画を見せてくれました。法務省が出している「犯罪や非行からの立ち直り」「立ち直った方からのメッセージ」という動画です。犯罪を犯した人でも、社会で活躍した人に「場所」を与えていると、それがぼくはとても大事だと思いました。動画に出てきた人たちも、昔は「居場所」がなかったと感じたからです。いつも悪いことをする仲間はいたけれど、本当はさみしかった、ただたと思います。ぼくも、悪いことをすることが時々あります。けれど家族はゆるしてくれます。いけなかつたことを具体的に注意して、その後はふつう通りに接してくれます。ぼくには安心できる「心の居場所」があるということです。犯罪をおかした人を支える人たちも、こうした「心の居場所」を作っていると思います。それが次の犯罪を生み出さない事につな

ぼくは祭りを楽しみながら、花火を打上げる人、ちゅう選会の景品を準備する人、屋台を出していいる人、ステージを盛り上げている人：色々な人が働いておられることに気付きました。そして中でも気になつたのが本部テントにおられた人です。みな同じ上着をはおつておられます。そこには多伎町のコミュニティセンター長もおられました。その時は忙がしそうだったので、後日、電話でお願いをして祭りについてお話を聞かせてもらうことになりました。本当はとてもドキドキしていました。けれど「多伎町を明るくする」ということについて考えたかったので、勇気を出して行きました。

がつてはいる感じました。「反省は一人でも出来るけど「更生」はみんなの力がないと出来ない。という言葉が一番心に残っています。次に「地域の交流がある社会」について考えます。実はこれも「心の居場所」ということに関係していると思います。ぼくの住む島根県出雲市多伎町には、日本海をながめる」とが出来る「道の駅キララ多伎」があります。そこで行われる地団子祭りは、ぼくにこの町での「居場所」を感じさせてくれます。屋台がたくさんならび、ちゅう選会も大盛り上がりです。夜には花火が打ち上げられ、とてもきれいです。けれど、たくさんの人の力が必要だと思いました。そこで今年は、祭りに関わっておられる人を見つけて、お話を聞いてみようと思いました。

センター長は笑顔でむかえて下さいました。まずは祭りの目的を教えて下さいました。「地域住民の交流の場になるように」というお話を聞いて「ミニミニセンター」も、町の中に「居場所」を作つている大事な施設なんだを感じました。次に祭りのための準備について聞きました。費用集め、協力者を集め、衛生管理、物品準備など、やはりたくさんありました。みなさん大変だったと思います。けれどセンター長さんは続けて、こうおっしゃいました。

「地域の人の力が大きかつたんだよ。ボランティアとして祭りのお手伝いをする方、お祭りの運営ひを寄付する方がたくさんおられたんですね。お金ももらうことを目的にせず、地域の人たちへの思いで行動する人がいてこそ、地域が明るくなるんだと思いました。(ぼくの「居場所」もこうして出来ているのです。

ルールを守らない友だちを見るとき、ぼくは迷惑だなと思つています。した。けれどこれからは、その人が、なぜそんなことをするのか、どうしたら止められるのか、そして、その気持ちによりそつて、やめられるよう話してみようと思います。また地域交流の場を作るためにボランティアに参加したいです。祭りの時だけでなく、多伎町がいつも元気で、みんなの「居場所」になるように、ゴミ拾いや海岸清掃など、自分に出来ることをがんばります。

皆さんには、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいますか。私にはたくさんあります。しかし、現在の日本、もっとと広くいえば世界中には、誰かにとつて傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。

誹謗中傷とは、悪口や根拠のないウソを広め、相手の気持ちや名譽を傷つける犯罪行為です。特にSNSを利用した誹謗中傷が多く、たくさんの人たちの心が傷つけられています。なぜSNSでの誹謗中傷が多いのか、それはお互いの顔を見ることができないからです。顔が見えないことを利用し、相手を傷つけます。

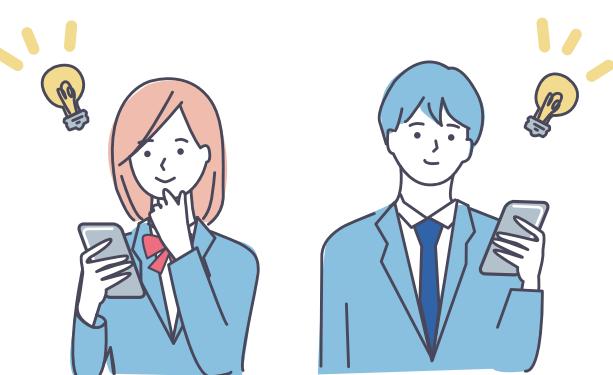
皆さんには、大切な人や好きな有名人など、この人には傷ついてほしくないという存在がいますか。私にはたくさんあります。しかし、現在の日本、もっとと広くいえば世界中には、誰かにとつて傷ついてほしくない人を傷つける人がたくさんいるのが現状です。その原因の一つとしてSNSでの誹謗中傷が挙げられます。

私は、誹謗中傷をする人は、なぜ人を悲しませるかと、平気で見るのか不思議に思い、調べてみると、「相手のことが嫌いだから」や「自分の意見が正しいから他人に押しつける」、「ストレス発散のため」、「多数の人たちが悪口を言っているから罪悪感が薄れてやってしまった」など様々な理由があることがわかりました。では、理由があれば、何をしてもよいのでしょうか。

もし、皆さんが誹謗中傷を受けている立場だつたらどんな気持ちになりますか。私だつたら悲しいやしないででは収まらず、自分の存在価値を疑い、どうしようもない不安や悲しみが押し寄せて、誹謗中傷に押しつぶされてしまうかもしれません。誹謗中傷に対して反論することもできず、ひどい言葉を投げかけられ続ける状況を考えるだけで胸が締めつけられ、怖くなりります。

SNSは人々を怖がらせたり、傷つけたりするためにつくれたものではありません。みんなの生活を便利にしたり、楽しめたりするものです。SNSで悪口を投稿すれば、その悪口を見た人が傷つくことは誰にでも想像ができます。今、誹謗中傷をしている人は、悪口を言われた相手の顔、気持ちを想像して今すぐにやめてほしいです。

SNSの使い方を見直し、上手な使い方をする人が増えることで、全員が安心して暮らせる世界になること、誹謗中傷で悩んでいる人たちが一人でも減つて、みんなが笑える世界になると私は信じています。



失敗を糧とする

～映画作りから考える先入観との戦い～

啓発講演会 聴講記

保護司

雲藤
芳子



今年度は、講師に「白い船」で一躍世間に、映画監督として有名になられた地元雲州平田在住の錦織良成さんをお迎えして、何故ふるさと島根を舞台に映画を撮る事になったのか。人生は、失敗するものだよ！失敗しても必ず助けてくれる人がいるよ！というメッセージを映画を通して届けようと思つたのか…等、錦織監督作品の各映画の一部上映も見せていただきました。

まず、「先入観」について。映画のジャンルとして、邦画と洋画があるが、邦画は日本の映画作品、洋画は海外作品の映画となつてゐる。しかし、日本国内で上映されている洋画は、殆どアメリカ映画であること。

世界の映画作品は、私達が見知つている一握りの世界観ではないこと。世界には、いろんな国がある

だけ各国の文化や価値観があるということ。正義をかざして敵を倒す：サクセスストーリーを見せられている。偏った価値観の映画を見ていることに気づいてほしい。エンタメ・娯楽映画ばかりではなく、心が震える・感情に訴える海外の

監督のお人柄から醸し出されるトーキーは、時間を忘れるくらいあつという間の聴講でした。

島根の自然の景色や島根の人たちの日々の営みを通して、社会に多様性があり、それぞれに個性がある地域の人達、みんなでそういう地域を支えている。世界には、言動の自由を保証されない国や開発途上国など様々な環境の国もある。錦織監督は、表現の自由が保証されている日本だからこそ、そういう包容力のあるふるさとだから、日本人の自分たちが、人間の心の豊かさ・相手を尊重する、

映画作品を見ていただきたい。

映画は、宣伝・観光の為ばかりではなく、映画を見に来ている観客のためのものであるべき。様々な「学びがある」ものを提供することが大切と思い、創作活動していること。そういう想いが、ふるさと島根での映像になつてゐる。

島根の自然の景色や島根の人たちの日々の営みを通して、社会に多様性があり、それぞれに個性がある地域の人達、みんなでそういう地域を支えている。世界には、言動の自由を保証されない国や開発途上国など様々な環境の国もある。錦織監督は、表現の自由が保証されている日本だからこそ、

映画では、失敗した人たちの疑似体験をすることもできる。何度も失敗するけど、いろんな人達から助けを借りて成功していくという疑似体験もできる。悩んだ時に、心の支えとしてもう映画作りをしていきたいと、熱い思いを語つてくれました。

今回の聴講を通して、私事として、「先入観」の話をされた時、ガツンと衝撃を受けました。いろいろな物の見方をしているつもりの自分がいましたが、まだまだ…。錦織監督の映画を視聴してみたくなりました。ありがとうございました。



初めての接見

～島根あさひ社会復帰促進センターを訪ねて～

保護司 津戸 弘光

初めて彼（Aさんとしよう）と会つたのは、日差しも強まつてきな今年の6月に生活環境調整のため、島根あさひ社会復帰促進センターを訪れたときのことだつた。時間にゆとりをもつて出かけたため、到着したのは予定よりかなり早く、結局、接見開始を15分繰り上げ、終了は当初の予定通りにしてもらつことになつた。フルに時間を使えば、計画より15分長く接見でききる。

やがて、刑務官さんに導かれてAさんが入室された。

前もつてBさん（身元引受人）から説明を受けていたこともあり、体格や雰囲気はほぼイメージ通り。行動や表情も落ち着いておられて、初めてお会いしたように思えなかつた。

刑務官さんの落ち着いた指示のもと、軽く気を付けの姿勢で会釈をされた。

私はというと慌ててしまつて、中腰のままで会釈を返してしまつた。なんとも中途半端で恰好悪い（と思つた）。本来なら同じ対応を淡々と返せばいいのに…。こんな

ところに新米のアラが見えてくる（笑）。

でもそんなことは無かつたかのような顔をして、初めましての自己紹介を簡単に済ませ、私が初めて受け持つケースであることと、接見そのものも全くの初めてであること正直に話し、今日の予定のあらましについて説明した。

この点についてはそれぞれに思われることがあると思う。

私自身、経験が圧倒的に乏しく、この判断は賭けのような一面もあるだろう。

「Aさんの穏やかそうな対応を見て判断した」とでも書けば少しは保護司らしくみえるところかもしれない。

しかし、初めからそのようなことは考えていかなかつた。

（元々器用ではない自分のこと。

兎に角素直に、ありのままの自分で対応しよう。それでうまくいかなかつたらそれはその時考えよう。いや、そんなことさえ考えてはいなかつたのかもしね。先に淡々とという言葉を使つたが、いつの間にか一所懸命に無心で

あつた。）

その日の予定のあらましとして、次のように伝えた。

①お互い音楽が共通の関心事でもあるようなので、そのあたりからおしゃべりしましよう。

②そしてこれまでの生い立ちなどについて、ざつぐばらんに話してください。

③入所するに至つた経緯については話したくないこともあるかもしれません、できるだけ教えてください。

④復帰してからの生活の計画や希望することがあれば教えてください。

⑤復帰したのち、自分がギャンブルなどに近づかないために考えていることがあれば仰つてください。

これらは観察所からの要請を受けて、自分なりに構成したことであるが、言葉面はもちろんそのままではない。追加の言葉を挟んだりしながら、適時修正しながら進めといった（ように思つ）。

また、私の問い合わせに答えるだけでなく「聞かれていませんが、仕事について私が強みに思つていることについても話してもいいですか」とのリクエストもAさん自身からあつた。このように自ら話を振つてきてもらえたことは少し意外であつたが嬉しくもあつた。

これからも苦労に思うことや厳しい面もあるかと思うが、微力でも力を尽くし、助けを必要とする立場の人とともに、一步一步歩んでいきたい。

に具体性があり理解しやすく思え

たが、問い合わせを発する私の方は説明がくどくなつたり意味内容が抽象的になつたりすることもあつたと

思う。しかし、Aさんは何事にも前向きに捉え、応えてくれたのに

は感謝したい。

接見の時間を15分も増やしてください。

ださつた促進センターの方のご判断にも感謝したい。

あつという間の75分間であつた。

何度も言うが、今日が人生初めての接見だった。

きっと大したことはできない。

ただ、一つだけ、次のような思

いで、出雲に帰るまでの2時間、私の胸中はいつぱいだった。

セントアンドレアス病院でAさんと過ごした1

時間余り。できるだけ心を碎いて精一杯対応した。しかし、終えた今思うことは一番励まされ癒されたのは外ならぬ私だったのでな

いだろうかということである。

思えば6年前、思いがけず地域のリーダー的存在である方にかな

り強引に誘われてこの仕事にご縁

を戴いた私であつたが、初めての接見を経て、このような充実感を味わうとは全く予想していなかつた。

これからも苦労に思うことや厳

しい面もあるかと思うが、微力で

も力を尽くし、助けを必要とする

立場の人とともに、一步一歩歩んでいきたい。

出雲地区保護司会は、十月二十二日及び二十三日に保護司十二名の参加を得て視察研修を行いました。

一日目は「高松刑務所」(高松市)を訪れ、総務部長から概況説明を受けた後、施設案内をしていただきました。刑務作業では高級石材として有名な庵治石の加工や印刷作業などを見学しました。また、受刑者の居室を見せていただき、居住環境や整理整顿されている様子がわかりました。

受刑者の高齢化が進み、機能訓練の実施や福祉の専門知識を有する職員の配置等の取組みのほか、外国人受刑者の増加、本年六月に施行された拘禁刑への対応など新たな課題についてもお聞きし、刑務所を取り巻く現状への理解を深める



研修風景（高松刑務所）

出雲地区保護司会は、十月二十二日及び二十三日に保護司十二名の

参加を得て視察研修を行いました。

二日目は「丸亀地区保護司会」(丸亀市)を訪れ、各々の活動状況の説明と意見交換を行いました。

意見交換では、保護司について①活動内容の理解・周知、②担い手の確保が主なテーマで、「丸亀城イエローライトアップ」や「中学校生徒弁論大会の開催」等の取組みが紹介されました。また、担い手確保では関係機関はもとより各地域コミュニティとの連携の方について意見が交わされました。



丸亀城を背景に

県外視察研修に参加して

→高松刑務所・丸亀地区保護司会を訪問←

保護司 坂本正人

更生保護功労受彰者

法務大臣表彰 鈴木二朗 長子明久

全国保護司連盟理事長表彰 景山大圓

中国地方更生保護委員会委員長表彰 藤原恵美子 堀内時雄

水教一 井上安弘

勝部篤 前島虎次郎

椿百合子 三加茂圭祐

高見睦哉 岩島虎次郎

山田信之 木次順子

藤原恵美子 布野直美

山岡尚 山田信之

石飛博雄 花原良治

高見睦哉 布野直美

山岡尚 山田信之

藤原恵美子 布野直美

山岡尚 山田信之